



# 高輪だより

令和2年度3月号  
港区立高輪幼稚園  
園長 柿沼 敦子

「令和2年度の終わりに」

園長 柿沼 敦子

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」1月から3月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうという言葉です。その言葉通り、もう3月。修了式、終業式まであとわずかです。

緊急事態宣言下、分散型となりましたが、3学年とも劇や劇遊びの発表が終わり、各学年の保護者の方々からご感想をいただきました。

3歳児は、「みんなが自分らしく表現する姿が可愛らしかった」「家に帰っても動物になり切っていた」「自分の出番を待つ姿に成長を感じた」

4歳児は、「お面を一から自分で作ったこと、皆で大道具を作ったこと、大きな声でセリフが言えたことなどに大きな成長を感じた」「普段の遊びから楽しんできたものを劇にしているので、生き生きと表現していた」「学級としてのまとまりを感じ、もうすぐ年長になることを感じた」

5歳児では、「大きな声で堂々とセリフを言って、役になって演じ、裏方の効果音や舞台転換の役割をしっかりと果たす頼もしい姿に感動した」「途中、セリフが出なかったり間違えたりしても、そっと教えたり、アイコンタクトで知らせたりする姿に年長はすごい!と思い、助け合う素敵な子どもたちに成長していると思った」「全員が劇の流れを理解して作りあげ、成功させた達成感を感じたと思う」「3年間の一人ひとりの成長を感じた」「終わった後、心がほっこりした」など、3学年それぞれの子どもの成長を保護者の皆様感じていただくことができました。

さて、感染症予防のため今年度は、小学校と例年のような交流ができませんでしたが、先日5歳児に高輪台小学校5年生からビデオレターが届きました。小学校生活を紹介する5年生手作りのビデオの画面に、5歳児は釘付けとなりました。小学校生活への関心や期待を高めるような内容と、一生懸命な5年生の姿は、子どもたちの心に響いたようです。後日、5年生へお礼の手紙を届けることになりました。渡す時間は、ほんの5分間くらいでしたが、互いに出会いをとても喜び合いました。入学したときに世話をしてくれるお兄さん、お姉さんと別れ難く、ずっと手を振りながら園に帰ってきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、かつてない年度の始まりとなりました。臨時休園、分散登園を余儀なくされ、感染症防止対策に努め、新しい生活様式に配慮し、普段の遊びはもとより、子どもまつり、たかなわんぴっく、コンサート、子ども会等々、できることを工夫しながら子どもたちの園生活の充実に向けて取り組んだ1年でした。保護者の皆様、地域の皆様の甚大なるご理解とご協力のおかげで、園児が「わくわく」と心を弾ませて遊び、温かい人との関わりの中で心を「ぽかぽか」にして自分らしさを発揮し、「笑顔」が溢れる毎日を過ごし、一人ひとりが大きく成長しました。ありがとうございました。

令和3年度も新しい生活様式を継続して始まることと思います。今年度果たすことができなかった活動をできる限り復活させ、変更したことにより成果があったことを継続するなど、子どもたちの成長につながる教育の充実に向けて教職員一同、一層努めて参ります。

3歳児劇遊び「ノントンの誕生日」



4歳児 劇「とかげくんのしっぽ」



5歳児 劇「おむすびころりん」

